



## 学習企画

## 第4回

## 「軍事国家への道を許さない」

## 「宣戦布告」が攻撃の前提条件

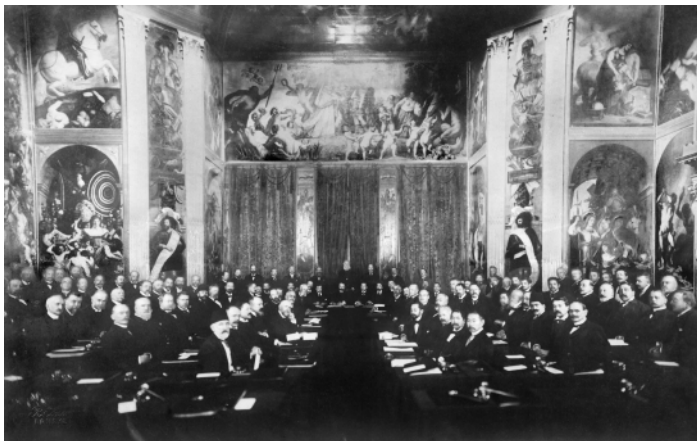
さて、前回現在国会でもニュースでも取り上げられている「反撃能力」は、国際的には「先制攻撃」になると記しました。戦争を開始する場合は、現在は次のような取り決めになっています。「開戦」に当たっては相手国に最後通牒＝宣戦布告を出し、中立国には通知を出すことが国際的なルールになっています。

(ハーグ陸戦協定および1907年10月18日 開戦に関する条約)

ですので、他国が仮に日本に先制攻撃をしかける場合は、最後通牒をしてから攻撃をすることになります。ですから、最後通牒もなく、いきなりミサイルが飛んできたり、爆撃機で爆弾が落とされたりということはありません。ロシアの軍事侵攻の状況があり、意図的にこの国際的なルールを隠している政府の状況があるということは問題にすべきことだと思います。逆に「反撃だ。」としてミサイルを日本が撃った場合は最後通牒もなく開戦をしたと国際的にも非難されることになってしまいます。真珠湾攻撃の二の舞となってしまいます。

では、「ロシアのウクライナ侵攻はどうなのか?」という疑問が沸いてきます。実はロシアとウクライナは2014年のロシアによるクリミア半島併合を機に戦争状態にあり、2019年パリ和平協定で戦闘停止の措置をとることで合意されたのですが、それが実施されず現在に至っています。ですから、いきなりロシアによる軍事侵攻が起こったことは間違いありませんが、事実上の戦争状態が継続していた中での軍事侵攻ということになります。

翻って日本は上記のウクライナのような領土問題紛争状態はあるのでしょうか?一部は存在しますが、いずれも日本が奪い取っているあるいは日本が軍事力等で実効支配しているというものではありません。逆に他国が軍事力等で日本の領土を占拠しているものばかりです。韓国との間に生じている「竹島」問題。ロシアとの間に生じている「歯舞・色丹」「千島列島」のみです。ですから、日本の場合をみると宣戦布告がない状態でいきなりミサイルが飛んでくるような客観的な状況は存在しません。この点は冷静に判断していく必要があると思います。



▲万国平和会議 (出典: Wikipedia)

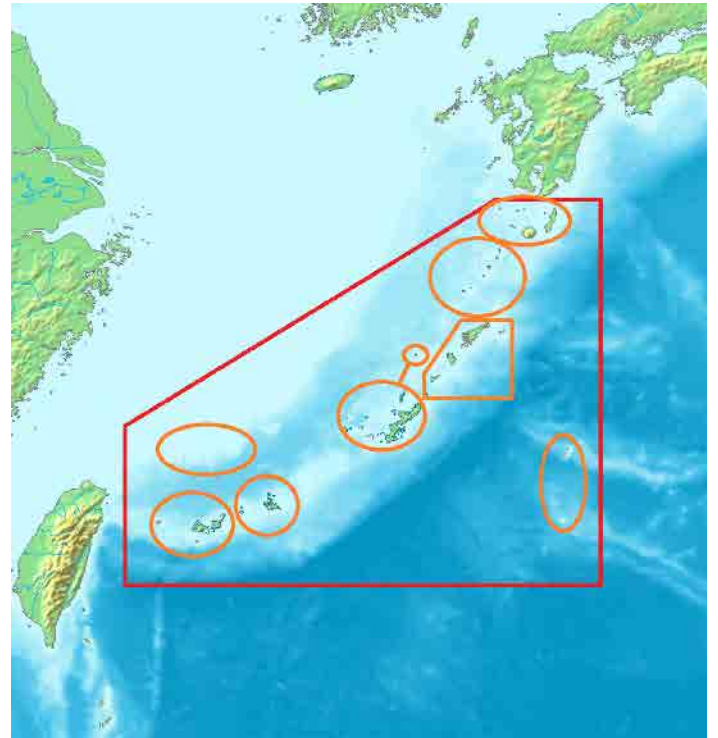


▲歯舞群島・色丹島 (出典: Wikipedia)

## 台湾有事って何でしょうか

現在、岸田政権とバイデンアメリカ政権がさかんに宣伝している台湾有事はどういうものかも見ておく必要があります。これが一番の口実で「反撃能力」を持つ必要があるという説明になっているからです。現在、アメリカの公式見解は「1つの中国」というものです。つまり、中国が主張している「台湾は中国の一部という主張」を「認識している」という見解です。アメリカはこの中国の主張を「認識はしているが、承認はしていない。」という立場のようですが。

仮に中国が武力で台湾を攻撃した場合は、外国への軍事行動ではなく、「内戦」というのが、中国の主張となります。もし、そこにアメリカ軍が軍事力で介入するとすると、他国の内戦あるいは他国の国内問題に軍事的に干渉してきたという重大な国際問題になります。そして、日本はというと、その動きに「巻き込まれる」のではなく「加担した」となってしまい、国際的にも非難されてしまう状況に陥ることでしょう。



▲台湾と南西諸島 (出典: Wikipedia)

## 朝鮮半島問題はどうか



▲朝鮮半島 (出典: Wikipedia)

ところで、北朝鮮の弾道ミサイルの発射によってJアラートが携帯電話に届き、びっくりされた方も多くいると思います。台湾に限らず、北朝鮮との関係も冷静に見ておくことが大事です。政府とマスコミが意図的に煽っている側面が強いと思っています。

ここでは、2つの問題があります。一つは、Jアラートに該当しない北朝鮮のミサイル発射を「危険だ。」ということ高声高に叫んで危機感を煽っていることです。そもそもそれぞれの国の上空は一定限度（概ね100km）までは領空ですが、それ以上となると圏外となります。そうしないと人工衛星は打ち上げられなくなります。この間の北朝鮮の弾道ミサイルのほとんどは、大気圏外であり「警戒アラート」範囲外なのです。

もう一つは、北朝鮮と連合軍は今でも休戦中という状況で停戦はしていないということです。しかし日本は連合軍ではありません。ですので、北朝鮮と日本が戦闘状態にあることはありません。ここは冷静に見ておく必要があります。(国吉)